

まだ、叶わぬ夢

～アフリカ系アメリカ人の解放闘争と
ラングストン・ヒューズの詩的ヴィジョン～

講師

メリルローズ・パターソン 氏

(通訳：竹田すみ子氏)

日時 2018年11月9日(金)

11時00分～12時30分(2限目)

会場 1号館1-405教室

*入場無料で、事前申込みは必要ありません。皆さまのお越しをお待ちしております。

ラングストン・ヒューズ(アメリカの黒人詩人、小説家)の作品や活動について、また大恐慌後の1930年代から公民権運動が全盛となった1960年代頃までの、パターソン氏の両親が関わった急進的な黒人の解放運動について、お話をさせていただきます。

メリルローズ・パターソン (Dr. Mary Louise Patterson)

小児科医。現在は半分引退生活を楽しむ傍ら、臨床スタッフとしてニューヨーク市 Weill-Cornell Medical Collegeに勤務。シカゴ生まれニューヨーク市ブルックリンで育つ。医学博士の学位は、ロシアがソビエト連邦時、モスクワのPatrice Lumumba Peoples' Friendship Universityで取得し、同医大卒業後にUniversity of California, Berkeleyで公衆衛生学の修士号を取得。

著書：

「Letters from Langston: From the Harlem Renaissance to the Red Scare and Beyond [ラングストンからの手紙：ハーレム・ルネサンスから赤狩りを越えて]」 Evelyn Louise Crawford 共同編集



人権週間

1948年12月10日の国際連合総会において「世界人権宣言」が採択され、1950年にこの宣言が採択された「12月10日」を記念して「世界人権デー」とし、12月10日を含む前1週間を「人権週間」と定めて、加盟国に記念する事業を実施するように呼びかけられました。日本では1949年から12月4日～10日までの1週間を「人権週間」と定め、毎年人権尊重のための啓発活動を推進しています。桃山学院大学においても、この人権週間にあわせて「人権週間講演会」を企画・開催しています。